

Ashiya Education Day in summer (教育トーク)

1. 日程

令和6年8月2日(金) 13時~15時15分

2. 場所

芦屋市役所 東館 3階 大会議室

3. 今年度のテーマ

「今の子どもたちに求められていることは・・・」

4. 参加人数

学校園関係	地域・保護者・学生等	教育長・教育委員・事務局	合計
16	41	24	81

5. 当日のプログラム

(1) 開会

- ・教育長あいさつ
- ・教育委員紹介
- ・趣旨説明

(2) 講演会

「今求められている学力とは?!」 東京大学公共政策大学院 鈴木 寛 教授

(3) グループ協議

(4) 意見交流会

(5) 閉会

6. 鈴木寛先生の講演内容

※OECDの調査より

○良い点 学力は、日本は加盟国でトップ 学校への所属感もトップ

△課題

- ・自己肯定感
- ・自律学習を行う自信
- ・家族からサポートされているという実感



分析から見えてくるもの

- ・日本の子どもたちは余白の時間が少ない。ただ家族と一緒に夜ごはんを食べるだけでいい。そういった何気ない時間を共にすることが大事。その中で、子どもたちが困っていることを相談できる関係ができてくる。

※芦屋市の現状

学力は高く、全国平均を上回る。一方で、自己肯定感や自己有用感、学ぶ意義の実感などは低い。

芦屋は日本の縮図といえる。



※バランスよく育てる

- ・ 人間性の高い人が社会に出てからも伸びていく。
- ・ 自然・文化体験、家でのお手伝いなど、様々な体験を通してバランスよく育てていくことが大事。

※没頭する力

- ・ 好きなことに没頭する経験は子どもにとって重要。親はつい口を出してしまう。大人から見ると無駄と思えることでも、子どもの自由な時間、自由な人との付き合いなど、自己決定する機会を大切に。大人はそれを待つことが大切である。自己決定する経験を積み重ねることで、「脱指示待ち」の力を身につけることができる。

※小さな成功体験

- ・ 子どもにとって小さな成功体験を積み重ねることが重要。大人が、できていないことや失敗に焦点をあてるのではなく、1できたことを喜び、良いところを伸ばしていく。そういう小さな成功体験の積み重ねが自己肯定感の向上へとつながる。

7. グループ協議・意見交流での主なご意見

○個性を認め合う力の大切さ

- ・ 「私はこのままでいい。あなたもそのままでいい」これは先生も同じ。お互いに自己開示できるようなコミュニケーションの場を作ることで、個性を認め合うことができる。



○家族の時間の大切さ

- ・ 高学年になると、塾や習い事も増え、放課後遊べない子ども多い。
- ・ ゆとりをもった家庭環境で子どもたちの感謝の気持ちを育てることも必要。

○自己肯定感を高める経験

- ・ 人に決められるのではなく、自分の幸せを自分で追い求める生き方を。そのためにも、失敗をしながらも自己決定することが大事である。
- ・ 自分たちで学びたいことを選び、考え、実行する。自分のペースで行えるので、ゆっくり学びたい子ども、もっとやりたいと願う子どもそれぞれのペースで学ぶことができる。

○親が学ぶ機会

- ・「いい大学に行くことが大事」という価値観を変えていく機会が大事である。学力が目的化されると、子どもたちの自己肯定感の低下にもつながっていく。学校だけが変わるのではなく、企業や親も考え方を変えていくことが大事である。



○いい意味での後ろ向き

- ・その子らしく伸びる教育というのは、江戸時代の松下村塾でも大事にされてきた。昔からよしとされてきたことが、今再び脚光を浴びている。いい意味で後ろを振り返ることも大事である。

○自発的な学び

- ・探究の時間などは、興味のあることを学べるので、夢中になって学ぶことができた。また、双方向のコミュニケーションとなり、先生ともコミュニケーションをとりやすかった。

○保護者との合意形成

- ・個別の学びをすることによって「置いていかれる子どもが出てくるのでは？」という保護者の心配がある。学校側として「こういう風に進めていきます」ということを保護者に伝えていくと保護者も安心する。



○子どもがわくわくする仕掛けを

- ・季節の野菜を調理することや運動場の砂場などに川をつくること、チョウの羽化を見ることなど、実際の体験を通して、子どもたちがワクワクする感覚を持つことが大事である。それは「もっとしたい」「もっと知りたい」という学びのモチベーションになる。

○個性を認め合う力

- ・違いを変だとしてしまうと自分を抑え込んでしまう。そうすると、チャレンジしない大人になってしまう。

○脱指示待ち力

- ・大人が先回りして指示を出しすぎると、指示待ちに育ってしまう。子どものことを信じてあれこれ言わないことも大事にする。子どもの主体性を大事にする。

○幸福度

- ・勉強ができる一方で、自殺率が高く、精神的に追い込まれる日本に課題を感じていた。些細な幸せや身近な人との関わりを大切にしてほしい。



○余白の時間

- 幼稚園教育がとても素晴らしいと感じている。幼稚園では、子ども自身が決めていることが多い。自然体験もたくさん取り入れてくれている。小学校になると習い事を放課後にしている子が多く、公園にいても2、3人しかおらず遊ぶことが難しい。小学校以降でも余白の時間で自分の好きなことをしたり、コミュニケーションをとったりする時間が必要である。

○待つ勇氣

- 失敗をするからこそ、気づきが多い。でも、つい大人は手を出そうとしてしまう。そこをちょっと待つ勇氣が大事である。時間はかかるけど、その勇氣が子ども自ら気づき、自ら学ぶことにつながる。

○地域で育てる

- 高齢化もあり、地域の活動自体が減ってきている。こじんまりでも子どもを巻き込んだイベントや親子参加のイベントをしていくことで、子どもたちのアイデアを生かす場にもなり、地域のつながりを生むことにもつながる。またイベントを通して温かい地域づくりも目指したい。



○子どもをそのまま愛する

- 子どもにとって都合の悪いことを言えた時こそ認めてあげる。よいときだけでなく、どんな子どもも受け止めてあげる。